

釧路教育 310

令和4年3月



発行／釧路市教育委員会 教育支援課 釧路教育研究センター

〒085-0016 釧路市錦町2丁目4番地 Tel (0154)23-5189 Fax (0154)25-5999

巻頭言

「学校におけるコロナ感染の拡大」

釧路市教育委員会 学校教育部長 大坪 辰弘

令和4年1月27日～2月20日までの期間、北海道全域に「まん延防止等重点措置」を実施、行動変容の要請、飲食店等への要請、イベント開催の制限、公立施設への入場制限、そして学校への要請等、第6波にあたっての各種措置が講じられてきました。

第5波の時は夏季休業期間であり、7月末～9月の児童生徒及び教職員の感染者は46人と多かったものの、学級閉鎖等の措置を講じるケースは少なく授業への影響も最小限に抑えられていたと思います。

今回の第6波は、年明け、特に1月中旬から北海道全域で感染者数が急増、釧路管内でも同様に連日100人を超える感染者が確認されており、1月に感染した児童生徒及び教職員は約半月で316人、第5波の約8倍、うち児童が246人と非常に高い感染状況となっております。2月に入ってから減少傾向が見られず4日現在で76人の感染が確認されております。

感染に伴う閉鎖は、学校閉鎖4校、学年閉鎖6校6学年、学級閉鎖25校87学級にも及んでおります。(既に終了している閉鎖含む。)

学校では保健所から告知を受けた保護者からの連絡により、健康状況、登校状況、学校での行動等の聞き取りから接触者のリストアップ、学級閉鎖の検討、その後、ほかの児童生徒の感染が確認されれば学級閉鎖の延長・学年閉鎖・学校閉鎖の検討、オンライン授業の対応など校内では日々新型コロナウイルス感染症への対応が続いております。あわせて、感染に関連する取扱いも短期間で内容が見直され、その対応・周知にご苦労されていることと思います。

このような状況の中、学校における新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた教育活動等において、登校できない児童生徒に対するICTを活用した学びの保障が重要であります。特に期間が短い3学期でもあり、タブレット端末を最大限に活用し児童生徒一人一人の学習を保障しなければなりません。

仮に学級担任等が感染したとしても、他学級の授業を配信、同学年の授業配信による合同授業の実施など様々な手法が考えられます。家庭にネット環境がない場合は学校の別室でオンライン授業を受ける、また、阿寒地区では国際ツルセンターの部屋を活用した事例もあります。

児童生徒のために学校が一丸となって創意工夫のもと、この感染拡大の難局を乗り切っていくことを願っております。

■「釧路教育」第310号 contents■

- 1 巻頭言 大坪辰弘学校教育部長の巻頭言です。
- 2 研究専門委員会の活動報告 釧路教育研究センター研究専門委員会 今年度の活動報告です。
- 3 釧路教育研究センターの再編にかかわって
- 4 釧路教育研究センターの再編にかかわって

研究専門委員会 今年度の活動報告

釧路教育研究センターでは、北海道及び釧路市における教育目標と教育推進の具現のため、5つの研究専門委員会を設置し、実践的な研究・調査を進めています。各研究専門委員会は、釧路市の教育充実を図るために日々、活動してきました。今回は、各研究専門委員会の令和3年度の活動について報告いたします。

学習指導研究専門委員会



新学習指導要領の全面実施に伴い、教育現場では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進が求められています。このことを踏まえ、学習指導研究専門委員会では、前年度より『主体的・対話的で深い学び』を実現し、児童生徒の資質・能力を育成するための学習指導と適切な学習評価の在り方について、実践的な研究を行い、各学校における授業力向上や学習集団づくりの充実に向けて取り組む」という主題（2カ年計画）を掲げて、研究に取り組んできました。

独立行政法人教職員支援機構（NITS）が公表している「実現したい子供の姿」をイメージ化したピクトグラムを活用したり、他地域の先行研究も参考にしたりしながら、「主体的・対話的で深い学び」とはどのような学びであるのか、釧路市として目指す子供の姿を明確にするべく、委員会内で多くの議論を交わして参りました。

今年度は、ピクトグラムを具現化したイメージを基に、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した単元デザインシートを構築し、授業実践やその検証を進め、より活用しやすいシートを作成し、各教科等の単元デザイン例を研究紀要としてまとめました。本単元デザインシートを活用することで、目指す子供の姿が具体的に想定された授業づくりが可能となり、一単位時間のつながりや単元のゴールなど、単元全体を見通すきっかけにもなります。

不十分な点もあるかと思いますが、我々の実践が各校の「主体的・対話的で深い学び」の実現の一助となることを願っております。

学習指導研究専門委員長 佐藤 義人(昭和小学校)

生徒指導研究専門委員会



昨年度は、学級経営に関わる種々の課題について比較・検討し、調査・研究対象を「学級目標の活用」に絞り込む作業を行ってきました。2年目の今年度は、研究紀要の発行を目標として活動を行ってきました。コロナ禍であることも考慮し、Chromebookを用い、Google classroomの共有機能も活用しながら、実際に現場で活用できる実践例を集め、編集する作業を行ってきました。研究紀要は、理論編、実践編の2つから成っており、実践編では、①目標を立てる、②目標を振り返る、③目標を生かすという3段階で、実際の事例を基にして、小学校、中学校とそれぞれの具体を盛り込んで資料をまとめました。ぜひ手に取って見ていただくと幸いです。また、10月25日・26日には「親と子の教育相談」が釧路市役所防災庁舎で開催され、生徒指導研究専門委員会は教育相談員のサポートを行いました。例年よりも、多くの相談者が訪れ、役目を果たすことができたと思います。

最後になりましたが、日頃より本委員会の活動に際し、多くの皆様に多大なるご協力をいただき、心から感謝いたします。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

生徒指導研究専門委員長 竹岡 良太(鳥取西中学校)

指導方法開発研究専門委員会



指導方法開発研究専門委員会では、授業における一人一台端末の効果的な活用について、「ロイロノート」を中心とした学習支援ソフトの実践的な研究に取り組みました。今年度の主な活動は以下の2点です。

1点目は、ロイロノートを活用した「授業実践活用シート」の作成です。本研究専門委員が、授業改善を図るためにロイロノートを活用した実践を記録しました。活用シートの内容に先生方の工夫を加えて、授業実践にお役立ていただけたら幸いです。活用シートは下記の場所に収録されていますので、ぜひご覧ください。

2点目は、ミニ研修講座「一人一台端末活用の充実」の開催です。ロイロノートの資料箱にアップロードされている活用シートの内容を実際に体験する研修会でした。一人の先生につき2台の端末を用意し、教師役と児童生徒役の両方を体験することで、ロイロノートの活用方法について理解が深まったという声を多数いただきました。

子供たちの学力向上に資するよう、一人一台端末の効果的な活用についてのこれまでの研究の成果を、先生方に活用していただけると幸いです。

【ロイロノート→資料箱→北海道釧路市先生のみ→01 釧路教育研究センター→03 指導方法工夫改善研究専門委員会】

指導方法開発研究専門委員長 松枝 昌明（釧路小学校）

郷土読本研究専門委員会



郷土読本研究専門委員会では、小学校第3・4学年で使用する郷土読本『くしろ』に関わる活動に取り組んできました。

1点目は、部分改訂についてです。第3学年2単元の小単元2「工場ではたらく人や農家の仕事」では、「紙をつくる仕事」をメイン教材として扱ってきましたが、日本製紙釧路工場の閉場に伴い、「水産加工品をつくる仕事」をその代替教材とし、改訂しました。また、全単元における資料データを可能な限り最新のものに更新しました。2点目は「学習プリント」の作成です。昨年度から取組を進め、計画していたすべてのプリント作成を終えることができました。指導をされる先生方の一助となれば幸いです。3点目は、「指導の手引き」の改訂です。先生方が授業で使用する際の参考となるよう、一単位時間ごとに学習のめあてや指導内容、まとめの例を設定しました。

この他にも、一人一台端末を活用した学習にも対応できるよう、下記のロイロノートの資料箱に郷土読本に関わるデータをアップロードし、随時更新しています。

郷土読本を活用する子供たちが、釧路に対する誇りや愛情を持てるよう、また、授業をされる先生方にとって使いやすいものとなるよう期待しています。

【ロイロノート→資料箱→北海道釧路市先生のみ→01 釧路教育研究センター→04 郷土読本研究専門委員会】

郷土読本研究専門委員長 津金澤 浩司（湖畔小学校）

特別支援教育研究専門委員会



今年度、特別支援教育研究専門委員会では、学びの過程において考えられる困難さを克服するための個の障がいに応じた一人一台端末の効果的な活用方法について、実践的な研究に取り組んできました。具体的には、各教科の学習活動で児童生徒がどこに困り感をもつのかを分析し、前年度まで研究してきたユニバーサルデザイン（UD）の視点を生かした授業づくりと結びつけながら、その中でどのように端末が活用できるかを研究し、蓄積した実践を特別支援教育通信にて発信しました。

通信では、端末の効果的な活用例について、2つ紹介しています。1つ目は、「家庭科の玉結び、玉止めの仕方を理解するのが難しい子」がいたときに、UDハンドブックの手立てに加えて、玉結びや玉止めのやり方動画を児童生徒の端末に入れ、児童生徒が必要に応じて見ることができるようにした事例です。2つ目は、「自分の考えをノートに書くことに抵抗感がある子」「自分の考えを具体的にイメージすることが難しい子」に対して、ロイロノートの思考ツールを使うことで書かずにイメージを膨らませたり、ジャムボードを使って言葉を選択したりできるようにした事例です。作成した動画や画像は、ロイロノートの資料箱にアップしていますので、ぜひ通信をご覧いただき、動画や画像を積極的に活用していただければ幸いです。

【ロイロノート→資料箱→北海道釧路市先生のみ→01 釧路教育研究センター→05 特別支援教育研究専門委員会】

特別支援教育研究専門委員長 久末 卓矢（鶴野小学校）

釧路教育研究センターの再編について

現在、5名の研究所員と25名の研究専門委員、計30名の市内教員が、釧路市及び北海道における教育目標と教育推進の重点の具現のため、今日的な教育課題について実践的な調査・研究を実施し、その研究成果を研究紀要の発行や研修講座の実施をとおして市内各校に広く発信しています。

今年度までは、5つの研究専門委員会体制で研究・調査を推進してきましたが、GIGAスクール構想の実現により、令和3年度から一人一台端末が整備され、各教科等で効果的な活用が強く求められるようになってきました。また、子供たち一人一人に適切な支援を行っていくためには、生徒指導と特別支援教育等を融合した視点を持ち、多様な状態像を理解することが強く求められています。

これらのニーズに対応していくために、令和4年度より、研究専門委員会を「学習指導・開発研究グループ」「子ども支援研究グループ」「郷土読本・地域学習研究グループ」の3つの研究グループに再編し、より効果的・効率的に研究・調査を推進することができる研究体制を確立し、各研究グループの研究成果が広く生かされるよう発信していきます。

(釧路市教育委員会)

これまで、釧路教育研究センターでは、5つの専門委員会がそれぞれの分野において、釧路市の今日的な課題に対して、調査・研究を行い、その成果を市内各校をはじめ広く発信してきました。

「学習指導研究専門委員会」では、学力向上に軸足を置きながら、キャリア教育などの即時的な課題にも取り組んできました。「生徒指導研究専門委員会」では、生徒指導全般に関わる内容から学級経営、校種間連携など幅広く調査・研究に取り組んできました。「指導方法開発研究専門委員会(旧教育工学研究専門委員会)」では、ICTやプログラミング教育など教育のデジタル化が進む中で、現場の先生方がすぐにでも使える多くの実践事例を発信してきました。「郷土読本研究専門委員会」では、小学校3・4年生が社会科で使用している郷土読本『くしろ』の編集において、常に新しい情報に改訂する作業や、学習を進めるための「指導の手引き」を作成してきました。「特別支援教育研究専門委員会」は、平成25年に新たに立ち上がった委員会です。その背景には、特別支援教育のニーズの高まりがあり、「特別支援教育通信」の発行やユニバーサルデザインを意識した授業の実践や紹介を行ってきました。

今後は5つの研究専門委員会が3つの研究グループに集約されますが、これまでの研究成果を生かして、釧路市の教育のさらなる発展につなげていきたいと思っております。あわせて、これまでの研究にご協力いただいた釧路市内の多くの先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。

(釧路教育研究センター主任研究所員 鳥取小学校 渡辺 悟之)

釧路教育研究センター教育講演会について



2月5日(土)に予定しておりましたが、「令和3年度教育講演会」は、新型コロナウイルス感染症の拡大状況を鑑みて、中止とさせていただきます。

大館市教育委員会教育長、高橋 善之氏の教育講演会につきましては、令和4年度、改めて開催させていただく予定です。詳細が決まりましたら、ご案内させていただきますので、多くの皆様にご参加いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。